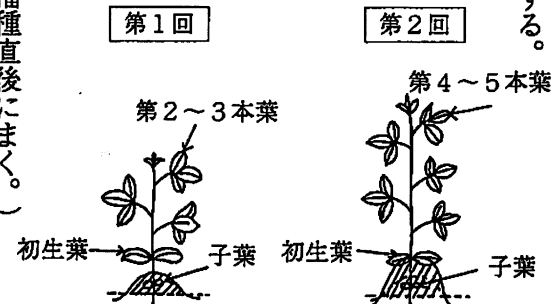


大豆(えんれいのそら)

〔大豆の生育と栽培管理〕

生育と農作業	排水対策・土づくり期間		栄 養 生 長 期 間	
	4～5 月	6 月	7 月	8 月
○土づくり ○圃場排水 ○種子消毒 ○種子の準備	○施肥 ○整地・畦立 耕うん・碎土 1日で終る	○除草剤の散布 ○1回目培土 ○2回目培土	○1回目培土 ○2回目培土	○開花期 ○莢伸長期 ○畦間かん水
栽培の留意点	塗沫処理する(JAで対応)。 紫斑病・タネバエ・フタスジヒメハムシ予防のクルーザーMAXを 特に水はけの悪い場合は、サブソイラー等による透水性の改善。 排水条件をよくするため額縁排水溝の設置。	・播種後の溝や額縁排水溝を手直しし、排水口へ連結する。 ・播種は5月25日以降に行う。 ・土塊を細かくする。(発芽揃い及び除草効果を高める)	・培土後、雑草が残る場合は除草剤を散布する。 (播種後30～35日頃) ・本葉4～5枚の頃、初生葉が埋まる程度。 ・培土後の溝と排水口を連結する。 (播種後20～25日頃) ・本葉2～3枚の頃、子葉が埋まる程度。	・仕上乾燥及び選別は農協の施設で行う。 ・刈取高さは地表から10cm程度とし、絶対に土を入れない。 ・絶対コンバインの中へ入れない。 ・茎が枯れていないものや、大きい雑草はあらかじめ除去し、 ・収穫作業は効率的に行い、収穫適期内で終了する。 コンバイン 収穫



土づくり(10aあたり)

品名	10a当り 施用量
堆肥	2t
シェルホス 又は	100kg
苦土石灰 + 粒状熔燐	100kg 40kg

は種

時 期	種子量(kg/10a)		栽植本数 (本/10a)	スプロケット	
	大粒	中粒		目皿側	車輪側
5月25日～ 6月上旬	5.8	4.7	16,000	10～11	13
6月中旬	6.5	5.3	18,000	9～10	14

※目皿はB2を使用する

施肥量(kg/10a)

時 期	基 肥	
	基肥555(15-15-15)	
単 作	15～20	
麦 後	20～25	

の栽培基準

- ### 良質大豆生産のポイント
- 排水の良いほ場づくり(排水の徹底)
 - 的確な中耕培土
 - 適正な栽植本数
 - 干ばつ時の畦間かん水
 - 適正な品種
 - 病害虫の適期防除
 - 雑草防除
 - 適正な収穫・乾燥
 - 施肥量の遵守

生 殖 生 長 期 (登熟期間)			
8 月	9 月	10 月	
○開花期 ○莢伸長期 ○畦間かん水	○黄葉期 ○子実肥大期	○成熟期 (収穫)	○脱粒 乾燥調整施設へ
・排水する。 ・かん水は短時間で行い、水が全体に行き渡ったなら、すみやかにその都度かん水する。(開花後40日間)	・8月20～25日 Zボルドートレボン粉剤DL 4kg散布する。 ・8月10～15日 スミチオンベルクト粉剤DL 3kg散布する。	・仕上乾燥及び選別は農協の施設で行う。 ・刈取高さは地表から10cm程度とし、絶対に土を入れない。 ・絶対コンバインの中へ入れない。 ・茎が枯れていないものや、大きい雑草はあらかじめ除去し、 ・収穫作業は効率的に行い、収穫適期内で終了する。 コンバイン 収穫	・仕上乾燥及び選別は農協の施設で行う。 ・刈取高さは地表から10cm程度とし、絶対に土を入れない。 ・絶対コンバインの中へ入れない。 ・茎が枯れていないものや、大きい雑草はあらかじめ除去し、 ・収穫作業は効率的に行い、収穫適期内で終了する。 コンバイン 収穫

病害虫防除

時 期	対象病害虫	薬剤名*	散布量(10a当り)	総使用回数	収穫前日数
基本防除	1回目 8月上旬～中旬	紫斑病・カメムシ類	スミチオンベルクト粉剤DL	3kg	4回以内 21日前
		紫斑病 カメムシ類	ベルクトフロアブル + スミチオン乳剤	100～300ℓ(1,000倍液)	4回以内 7日前 21日前
	2回目 8月20～25日	紫斑病・カメムシ類	Zボルドートレボン粉剤DL* + アミスタートレボンSE*	4kg 100～400ℓ(1,000倍液)	2回 14日前
随時防除	7月下旬～8月上旬	ウコンノメイガ	サイアノックス粉剤	4kg	2回 7日前
	8月中旬～9月上旬	ウコンノメイガ・マメシ クイガ・ハスモンヨトウ	プレバノンフロアブル5	100～300ℓ(4,000倍液)	2回以内 7日前
	8月下旬	アブラムシ類	ダントツ日粉剤DL	4kg	3回 7日前
		ハダニ類	ニッソラン水和剤	150ℓ(2,000～3,000倍液)	2回 7日前
9月上旬～中旬	カメムシ類・ハスモンヨトウ	トレボン粉剤DL*	4kg	2回 14日前	

※トレボン剤を含む使用回数は2回まで